

「これからの途上国の産業開発を考える」第5回勉強会

2021年11月17日（水）16:30～18:00

スピーカー：伊藤亜聖先生

テーマ：デジタル化する新興国：共創パートナーとしての日本の可能性

概要：新興国・途上国にモバイル・インターネットを筆頭とする情報化の波が到達し、2010年代にデジタル化は大きく進みました。その結果、「南」と呼ばれてきた国々の経済、社会、政治が大きく変わりつつあります。多くの国では政府がデジタル開発構想を提起し、内外のプラットフォーム企業はその役割を拡大し、その影響は労働市場にも及び始めています。こうした一連の変化をふまえ、勉強会では、著書『デジタル化する新興国』が狙いとした、①新興国論の系譜をふまえた新たな概念の提案（工業化時代の「新興工業国論（NICs/NIEs）」から「デジタル新興国（Digital Emerging Economies）」へ）、②新しい日本の役割の提案（共創パートナーとしての可能性）に焦点をあててお話をいただきました。

具体的には、デジタル新興国論は、東アジア諸国に着目したNIEs論と比較して、空間的制限のないという特徴をもつこと、近年のモバイル・インターネットの普及により、「北のための南のデジタル化」から現地企業・企業家が主役となった壮大な社会実装実験を通じた「南による、南のためのデジタル化」という転換が生じていること、デジタル化は国々の可能性と脆弱性の双方を増幅する可能性があることなどが強調されました。そして、日本の相対的な存在感が低下しつつある近年、今後、日本は新興国との関係において、新興国から学びつつ、課題先進国としての経験や長年にわたる情報技術分野における開発協力の蓄積を活かして「共創パートナー」としての役割を果たしていくべき、との提案がなされました。

続く意見交換では、デジタル化へのシフトが途上国・新興国の国民全体の所得向上や雇用創出のニーズにどの程度応えられるか、デジタル化で発展できる国の要件や一定の工業化との関係の有無、日本が共創パートナーとなるための強みと弱み、デジタル技術による社会課題解決への貢献と倫理性や政治利用等のリスク（例：紛争国、生体認証）、教育のあり方への示唆等、活発な議論が展開されました。

（了）